

BIRD RESEARCH NEWS

2014年5月号 Vol.11 No.5

- 活動報告 ツバメと共存する街づくり
- 活動報告 東京湾シギ・チドリ類一斉調査
- 活動報告 オジロワシはなぜ風車にぶつかる？
- 生態図鑑 メジロ
- お知らせ 中国語文献翻訳版のご提供
- 図書紹介 カラスのひみつ



Photo by Yoshiro Watanabe

活動報告

ツバメと共存する街づくり

～フン受けと引っ越し作戦～

神山和夫

段ボールフン受け

ツバメのヒナを見かける季節になりました。毎年軒先にやってくるツバメを心待ちにされている方も多いと思いますが、一方でツバメの糞が迷惑がられて巣が壊されてしまうこともあるようです。ベニヤ板などでフン受けを作っているところもありますが、巣の下に常時板状のものがあると、ツバメが警戒して営巣しなくなる心配もあります。そこでバードリサーチでは、昨年からは、簡単に脱着ができる段ボール製のフン受けの配布を始めました。図のような一枚の段ボールを組み立てると、フン受けのできあがりです。今年は株式会社シー・アイ・シーの支援を受けて、1000枚を配布しています。

このフン受けの効果は、ツバメの落とし物を防ぎ、ツバメがいても迷惑にならなくなるというだけではありません。施設の側が、このような配慮をしているということを示すことで、来訪者の方の理解も深まり、結果的にツバメへの苦情が少なくなる効果も期待できます。

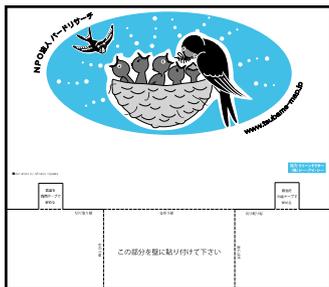


図. 段ボール製のフン受け。イラストは美術家の小川美奈子さん。



写真1. 窓ガラスに設置したフン受け(埼玉県の道の駅庄和)

巣の引っ越し作戦

しかし、フン受けを付けることが難しい場所に巣を作ってしまうこともあります。そこで今年はさらに共存を進める工夫として、営巣場所の誘導を実験中です。

埼玉県道の駅アグリパークゆめすぎとでは、トイレの入口の真上にツバメが巣を作っていました。しかし、その巣の下にはフン受けを付ける場所がなかったため、ツバメが巣を作っていた場所を網で覆い、その代わりに近くの壁に複数の粘土製の人工巣を付けてみたところ、トイレの入口に巣作り中だったツバメがそこに引っ越し、さらに別のツバメもやってきて人工巣を使い始めました。



写真2. 引っ越し前。トイレの入り口に巣を作ってしまったため、お客さんに糞を落とす危険があった(道の駅ゆめすぎと)。



写真3. 人工巣に引っ越したツバメ(道の駅ゆめすぎと)。

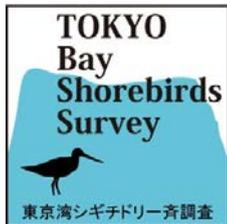
この人工巣は、フン受けのイラストを描いて下さった美術家の小川美奈子さんにご協力いただいて、2年前から試行錯誤を重ねて開発したものです。コルク粘土で形を作り、表面に泥を塗ったもので、本物のツバメの巣とそっくりです。

今後は他の場所でもこうした実験を行い、ツバメの巣場所を誘導するノウハウを確立して、人とツバメが共存できる街作りを支援していきたいと考えています。

活動報告

ある一日、東京湾には何羽のシギ・チドリ類がいるのだろうか？

東京湾シギ・チドリ類一斉調査GP 守屋年史



2012年の秋に東京湾シギ・チドリ類一斉調査を始め、今春で2カ年分の調査を行いました。モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査でも一斉調査が実施されていますが、前後1週間の期間で調査するため、その間に移動した個体群はダブルカウントされるといったことも起こり得ます。そこで、ある一日に東京湾にいた本当の数を記録するため、1時間という短時間で一斉カウントを行なうことにしました。その2年分の調査結果と、40年前の一斉調査の結果を比較して、東京湾のシギ・チドリ類の現状について考えてみたいと思います。

みんなで調査

ご参加いただいたのは、普段環境省のシギ・チドリ類調査にご協力いただいている会員の皆さんや地元の方々です。またシギチドリ振興(信仰)のため、出来るだけ公開して興味のある方にも参加していただきました。調査日に皆さんの予定を合わせるのは大変でしたが、なんとか調整していただいていたことが出来ました。

毎年春と秋の渡り時期および越冬期に調査を行ない、現在2年分実施しています。一日の中でも潮汐にあわせて移動するので、上述のように、基本的に最干潮の前後30分をコアタイムとした1時間の間にカウントしました。調査地は東京湾全域ですが、小さな水辺まですべて把握するのは難しいため、主要な場所は押さえられるよう以下の干潟で行いました。

調査地:

多摩川河口、六郷干潟、森ヶ崎の鼻、大井ふ頭中央海浜公園、ふるさとの浜辺公園、東京港野鳥公園、中央防波堤・外側埋立地、葛西臨海公園・海浜公園、行徳鳥獣保護区、江戸川放水路、塩浜海岸、三番瀬、谷津干潟、茜浜、幕張の浜、盤洲、富津岬

40年間の大きな減少とその原因

調査の結果、春期は24種3,073羽(2013/5/12)と22種3,547羽(2014/5/4)、秋期は21種929羽(2012/8/19)と26種891羽(2013/8/18)、冬期は10種2,097羽(2013/2/10)と10種2,301羽(2014/2/16)が観察されました。春が最も多く、春と秋の渡りの時期では秋が少ないという結果となり、これは全国の傾向と同じです。湾奥部の三番瀬、塩浜海岸、谷津干潟などで多くの個体が観察されましたが、この一帯は潮の干満にズレがあり、それに合わせてシギ・チドリ類が移動することで長時間利用できるため、シギ・チドリ類が滞在しやすい場所になっていると考えられます。

さて、この個体数が多いのか少ないのか、今から40年前、日本野鳥の会と鳥類保護連盟が合同で、全国のシギ・

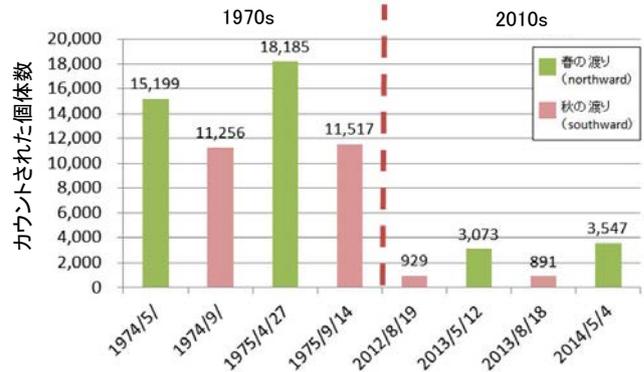


図. 東京湾内のシギ・チドリ類の過去と現在

チドリ類の春期と秋期の一斉調査を実施しています。その中から東京湾内のサイトを抜き出して比較したところ、春期で約20%、秋期で約8%に減少しています。(図)。日々の移動や年による変動もあるので一概にはいえませんが、大きく減少していることは確かなようです。

2000年代の全国のシギ・チドリ類の数は、1970年代からおおよそ半減していると考えられていますが(天野 2006)、東京湾内の減少はそれを上回ります。原因は、東京湾内の埋め立て整備による生息場所の減少が最も大きいと考えられます。小荒井・中埜(2013)によれば、千葉県市原市から浦安市、東京都江東区から大田区、神奈川県川崎市から横浜市磯子区の沿岸は、1973年以前にすでに埋め立てが行われており、葛西臨海公園付近や盤洲干潟付近を除き、沿岸はほとんど整備されています。73年以降は、さらにその沖の浅海部で埋め立てが進められました。上述の一斉調査が始まった1974年以前から生息環境は損なわれていたと考えられますが、当時は開発途上でまだ完全に整備されていない部分もあり、土壌が安定するまで放置された埋め立て地には湿地のような生息環境がまだありました。その後、一部は野鳥公園等になりましたが、大部分は乾燥化が進み、土地利用が進む中でシギ・チドリ類が利用できるような環境が大幅に減少していったと考えられます。

これから

東京湾内のシギ・チドリ類は大きく減少していますが、残された干潟や湿地、また人工湿地として整備された場所に依然数千羽規模で渡来しています。彼らは都市環境に囲まれた干潟の生物の多様性を示す重要な指標です。数年後に同様の調査を行い、12,000kmの旅をする水鳥達の中継地としての東京湾が、維持もしくは回復しているよう、活動していきたいと思っています。また東京湾だけでなく、他の地域の状況も調査してみたいと考えています。

参考文献

- 日本鳥類保護連盟・日本野鳥の会. 1976. 干潟に生息する鳥類の全国一斉調査3.
- 小荒井衛・中埜貴元. 2013. 面積調でみる東京湾の埋め立ての変遷と埋立地の問題点. 国土地理院時報 No.124(105-115).
- 天野一葉. 2006. 干潟を利用する渡り鳥の現状. 地球環境 Vol.11, No2(215-226).

活動報告

オジロワシはなぜ風車にぶつかる？

海岸の食物がワシの行動にあたる影響

植田睦之

北海道では風車にオジロワシが衝突するバードストライクが問題となっています。しかし、風車のまわりでワシを観察してみると、ワシはちゃんと風車を認識して、風車を避けて飛んでいます。それにもかかわらず、なぜかワシがぶつかる事故が起きています。

自動車を運転している時に、空をタカが飛んでいたり、道の脇に美味しそうなカツ丼の店があったりして、それに気をとられて事故りそうになったこと、みなさんにもありますよね。そんな「脇見運転」がワシにも起きていて、それが衝突事故の原因になっているのかもしれない。そこで、福田佳弘さんと高田令子さんにご協力いただき、環境省の「海ワシ類における風力発電施設に係るバードストライク防止策検討委託業務」のなかで調査を行いました。

食べ物があると前方不注意に

調査は北海道の東端、根室半島で、今年の1月と2月に行ないました。海岸に落ちている食物がワシの「脇見」の原因になるのではないかと考え、海岸に「何もない状態」と「食物がある状態」を作って、上空を通過するワシの行動をビデオで撮影しました。撮影後、映像を確認し、ワシが前を向いて飛んでいるか、下を向いて飛んでいるかを記録しました。連載中の「野鳥の不思議解明最前線」の86号で紹介しましたが、ハゲワシ類やノスリ類は下を向いてしまうと、正面に何があるか見ることができません。オジロワシでも同様に、下を向いて飛んでいると風車に近づいたことを認識することができず、衝突してしまう可能性があります。

調査の結果、海岸に食物がない場合、オジロワシが下を向いている時間は短く、ほとんどの時間はちゃんと前を向いて飛んでいました(図1)。ところが海岸に食物があると、下を向いている時間が長くなり、特に幼鳥や亜成鳥でその傾向が顕著でした。長い時では44秒間も前を見ずに飛んでいたことがあるほどです。仮に飛行速度を時速20kmとして計算すると、正面を見ることなく250m近くも進んでしまうことになり、事故につながる危険性がありそうです。

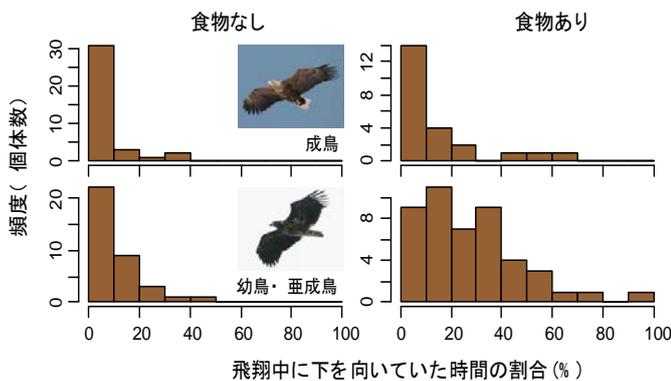


図1. オジロワシが下を向いて飛んでいる割合の海岸に食物がある場合とない場合での比較。 Photo by 越智葵

オオワシでも同様に食物の有無と視線方向の関係がみられましたが、オジロワシほど顕著ではありませんでした。

食べ物があると喧嘩も増える

この事業では、衝突メカニズム解明のために風車近くにビデオカメラを設置していますが、撮影中に実際にワシが風車に衝突してしまい、その瞬間の映像も撮影されました。そこには、他個体のワシに追いかけてられ、そのまま風車に衝突してしまったワシの様子が映っていました。この映像は環境省の動画サイトにアップされています (<http://bit.ly/1r7AskC>)。

オジロワシは、他個体やカラスなどに追われると、そちらの方を見てしまい、前を向かずに飛ぶことがあります。そのため風車に気づかず、衝突してしまったのかもしれない。また海岸に食物があるとカラスや他個体と喧嘩する頻度も高くなりました(図2)。食物があると脇見が増えるだけでなく、喧嘩まで増えてしまって、一層風車に衝突するリスクが高まるといえそうです。

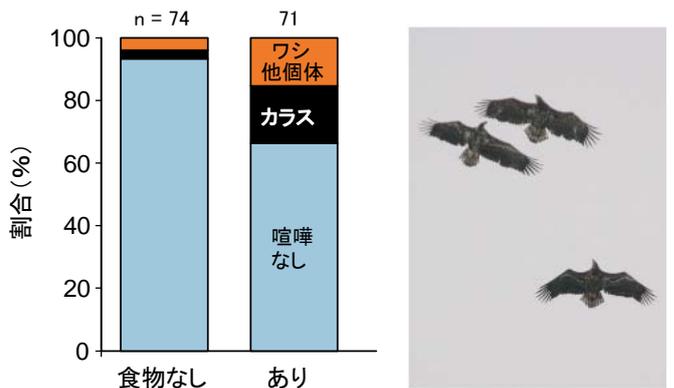


図2. オジロワシの飛行中のカラスやワシからの干渉割合。海岸に食物がある時は干渉が多い。 Photo by 越智葵

バードストライクを減らすために

これらの結果から、バードストライクが起きる原因の1つは前方不注意という可能性が出てきました。交通事故がなくならないように、バードストライクを完全になくすことは難しいですが、減らす努力はできます。今回の調査から、食物が事故を誘発する一因となっていることが見えてきました。このような事故を減らすには、ワシの食物が多い場所には風車を建てないことがまず第一だと考えられます。海獣の死体など大きな食物が風車のそばに漂着した場合には速やかにそれを撤去したり、また不用意にワシが風車に近づいてしまった時には音などで警告することも有効かもしれません。食物がワシの行動に与える影響をさらに調査するとともに、事故を未然に防止する対策についても考えていきたいと思っています。

野鳥の不思議解明最前線 86号

意外と鳥の視界は狭い? ~上方と下方が見えていないハゲワシ類~

[http://www.bird-research.jp/1_shiryu/fushigi/2012/fushigi\(86\).pdf](http://www.bird-research.jp/1_shiryu/fushigi/2012/fushigi(86).pdf)

メジロ 英: Japanese white-eye 学: *Zosterops japonicus*

1. 分類と形態

分類: スズメ目メジロ科

全長: (メ) 111.4±2.74mm (調査個体数=118)
 自然翼長: (メ) 56.9±1.4mm (120) (ダ) 57.7±1.1mm (114)
 尾長: (メ) 39.9±1.9mm (118) (ダ) 44.8±1.2mm (114)
 全嘴峰長: (メ) 13.7±0.8mm (119) (ダ) 15.7±0.5mm (110)
 ふ蹠長: (メ) 17.9±0.5mm (119) (ダ) 18.5±0.5mm (118)
 体重: (メ) 11.3±1.9g (116) (ダ) 10.3±0.6g (115)
 ※(メ)は亜種メジロの計測値(茂田 2009), (ダ)は南大東島の亜種ダイトウメジロ(成鳥)の計測値. 体サイズは亜種によって異なる.

羽色:

特徴的なのは名前の由来でもある白いアイリングである. この輪は目先で一部切れ, 下部は嘴基部から続く黒線にふちどられている. 頭部と体の上面はオリーブ色で, 喉は鮮やかな黄色を呈する. 目先の上にも黄色い斑があるが, この斑が顕著なのは亜種ダイトウメジロだけで, ほとんどの亜種では小さく, 目立たない. 腹は灰白色で, 脇腹は褐色味を帯びるが, 亜種リュウキュウメジロとダイトウメジロは褐色味が少なく, 白っぽい. 雌雄ほぼ同色.



写真1. 梅の花蜜を吸いにきたメジロ. Photo by 西村公志

鳴き声:

さえずりは「長兵衛, 忠兵衛, 長忠兵衛」と聞きなされる. 鳴きやむまでの1フレーズが長く, 時おり他種の鳴き真似を交えながら複雑な節回しでさえずる. 繁殖期を通して主に朝夕さえずるが, 抱卵期までは昼にも頻繁にさえずる(宮下 1970). 地鳴きはチー, チーと聞こえ, つがいや群れのメンバーと頻繁に鳴き交わす. 警戒声はキリキリキリ...と断続的に鳴き続ける.

2. 分布と生息環境

分布:

国内外あわせて9亜種に分類されている. 国内では北海道・本州・四国・九州および周辺の島しょに基亜種メジロ, 伊豆諸島にシチトウメジロ, 硫黄列島にイオウトウメジロ, 屋久島および種子島にシマメジロ, 南西諸島にリュウキュウメジロ, 大東諸島にダイトウメジロの6亜種が分布する(日本鳥学会 2012). 基亜種メジロは朝鮮半島南部やその周辺の島しょにも分布する. 小笠原諸島の父島・母島周辺の個体群は, シチトウメジロとイオウトウメジロの雑亜種個体群である(山階 1934). 北海道および本州北部では夏鳥で, その他の地域では留鳥または漂鳥である. 国外では, 中国東部および台湾にヒメメジロ, 中国南部海南島にハイナンメジロ, フィリピン北部バタン諸島にキクチメジロが分布する(日本鳥学会 2012). キクチメジロをフィリピンメジロの亜種(*Z. meyeri batanis*)とする見解もある(Dickinson 2003).

生息環境:

山地・低地の林をはじめ, 都市の緑地公園などさまざまな環境に生息する. 人家の庭などに営巣する例も多い.

3. 生活史

繁殖システム:

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
繁殖期						非繁殖期					

一夫一妻で ※本州の場合
 繁殖を行なう. ダイトウメジロでは, 巣立った年の秋までの幼鳥期につがい形成が行われ, 死別するまでつがい相手を変えないことが分かっている. ただし, 死別するとその繁殖期中に新たなつがいを形成する. 繁殖期は本州でおおむね4月からであるが, 生息地域によって異なる.

巣:

両親で協力し, 二又の枝先にカップ状のつり巣を造る. 主な巣材は草本の枯れ葉や繊維, ヤシ類の繊維, ススキの穂. シダ類やササの葉脈を使用した例もある. 枝への接着にはクモの糸や昆虫のマユをほぐしたものが用いられる. カモフラージュのために, 巣の最外部にはコケ類や葉脈だけの葉, 樹皮, シカの毛, 緑色の昆虫のマユなどが貼りつけられる(写真3).



写真2. 巣と給餌に来た親鳥.



写真3. カモフラージュ素材の例. 左:コケ(対馬産), 中:シカの毛とシラカバの樹皮, コケなど(札幌産), 右:黄緑色のマユ(南大東産)

卵:

卵は白色あるいは淡青色で無斑. 卵サイズは亜種ダイトウメジロで長径16.9±0.5mm, 短径12.7±0.2mm, 重さ1.1±0.3g(n=9)である.



写真4. 巣と卵.

一腹卵数, 抱卵・育雛日数, 巣立ち率:

一腹卵数は3~5卵とされるが, 生息地域によって異なる. 抱卵日数は約11日, 育雛日数は約12日で, 地域による違いは報告されていない. 巣立ち率は亜種ダイトウメジロでは67.6%(Horie & Takagi 2012), 亜種シチトウメジロでは34.8%(磯部 1991)との報告があり, 個体群によって異なるが, あまり調べられていない.

4. 食性と採食行動

花蜜, 果実, 昆虫などの節足動物, 樹液など, さまざまなものを採食する. 舌先が筆状になっており, 花蜜食への適応と考えられる. ヒナへは主に節足動物を給餌するが, 小笠原諸島ではグリーンアノール(上田 1990), 大東諸島ではヤモリの幼体を給餌するのが観察されている.

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 子育てに大切なのは父親の年齢

親鳥にとって、卵やヒナに対する捕食を避けることは重要な課題である。鳥類はさまざまな方法で捕食者から子を守るが、まずは捕食者に見つからないような場所に巣を造ることが基本となる。著者は南大東島のダイトウメジロで、父親の年齢が高くなるとともに巣場所が巧妙になり、繁殖成功率が高くなることを明らかにした。

南大東島は1900年までは無人島であった。ダイトウメジロにはもともと巣を襲う捕食者はいなかったが、人間の入植以降侵入したクマネズミと、開拓後に定着したモズに巣を襲われている。まず、どのような巣が捕食されやすいかを調べたところ、クマネズミとモズはともに周囲から見やすい巣を襲うことが多く、特にネズミは低い位置、モズは高い位置の巣を襲う傾向があった。次に、長期繁殖モニタリングの結果から、オス親の年齢と巣場所の関係を分析してみると、若いオスより年長オスの方が巣の隠れ度合い、巣高ともに高く、3歳以上のオスはネズミとモズ両方の捕食を避けられる中程度の高さに巣をかけていた(図1)。

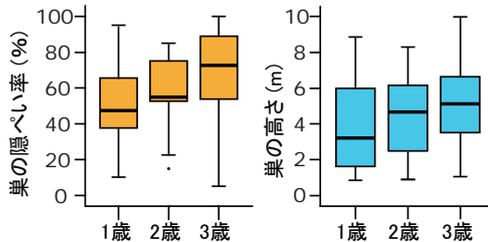


図1. ダイトウメジロのオス親の年齢と巣の隠れ率、巣高の関係。

ダイトウメジロは年に2~4回も繁殖を試みる。1シーズンの全営巣回数のうちヒナを巣立たせた割合を営巣成功率とすると、1歳のオスの営巣成功率は40%だったのに対し、2歳以上のオスでは77%と有意に高く、年長のオスほど捕食にあいにくく多くのヒナを残していた。

さらに同じオスの1歳時と2歳時で比較すると、ほぼ全ての個体で2歳のときの方が巣の隠れ度合いも巣高も高く、営巣成功率も高かった(図2)。

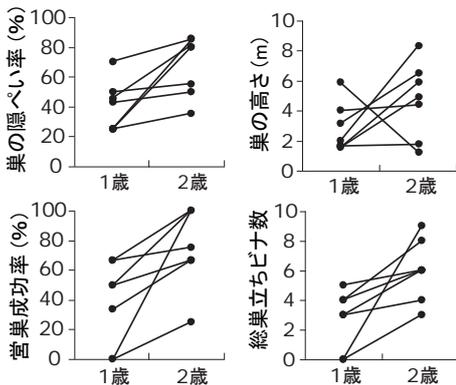


図2. 同じオス親の1歳時と2歳時の巣の隠れ率、巣高、営巣成功率、巣立ちヒナ数の向上。

一腹卵数や繁殖回数などの「産む数」には年齢間で有意な違いはなく、ダイトウメジロでは「たくさん産む」ことより「無事に育てる」ことが重要なのだと考えられる(Horie & Takagi 2012)。巣づくり前の行動観察などから、ダイトウメジロではオスが巣場所を選んでいる可能性が高く、経験の蓄積とともに2種の捕食者が襲いやすい場所を認識し、最適な場所に巣場所を修正していくようだ。

● ところ変われば子育ても変わる?

メジロは日本全国に分布し、亜寒帯の北海道から亜熱帯の沖縄まで、さまざまな気候条件で繁殖している。そのため、繁殖のタイミングや子育て方法が地域によって少しずつ異なる。たとえば、繁殖開始月は南大東島で1~2月(Horie & Takagi 2012)、伊豆諸島新島で3月(磯部 1991)、大阪府で4月(和田岳氏私信)、長野県で5月(宮下 1970)、札幌で5~6月である(川路則友氏、上沖正欣氏私信)。一腹卵数も大きく異なり、南大東島では 2.7 ± 0.5 卵(Horie & Takagi 2012)、伊豆諸島新島では 3.6 ± 0.5 卵(磯部 1991)、長野県では 4.1 ± 0.6 卵(宮下 1970)、札幌では 4.5 ± 0.7 卵(著者による調査データおよび川路則友氏、上沖正欣氏私信)と、南から北になるにつれて多くなる。繁殖時期や一腹卵数の違いがどのような要因によって進化するのか、という課題は70年近くも研究されているが、未だに解明されていない重要なテーマのひとつである。気候条件、餌量やその発生時期、捕食圧の強さ、渡りをする地域としない地域の違いなどさまざまな要因が挙げられているが、鳥たちの生活史の違いを幅広く説明できる要因はまだ明らかになっていない。様々な環境を有する日本列島全域でメジロの子育てを調べることで、鳥たちが環境に適応していく柔軟さの秘密を知ることができるのではないかと考えている。

6. 引用・参考文献

Dickinson, E.C. (Editor) 2003. The Howard and Moore Complete Checklist of the World. 3rd Edition. Princeton University Press, Princeton.
 Horie, S. & Takagi, M. 2012. Nest site positioning by male Daito White-eyes *Zosterops japonicus daitoensis* improves with age to reduce nest predation risk. Ibis. 145: 285-295.
 磯部清一. 1991. 伊豆諸島新島に生息するメジロ *Zosterops japonica* の繁殖生態. Strix 10: 73-78.
 宮下稔. 1970. メジロ. 長野県上水内郡誌 自然編, 681-687. 上水内郡誌編集会, 上水内郡.
 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版.
 茂田良光. 2009. 日本産と外国産のメジロ *Zosterops japonicus* の識別. 全国野鳥密猟対策連絡会, 京都.
 上田恵介. 1990. ヒナにトカゲやヤモリの幼体を運ぶ小笠原のメジロ *Zosterops japonica* とメグル *Apalopteron familiare*. Strix 9: 234-236.
 山階芳麿. 1934. 日本の鳥類とその生態. 梓書房, 東京.

執筆者

堀江明香 大阪市立大学理学研究科 博士研究員

卒業研究は西表島でリュウキュウメジロを、修士・博士課程では南大東島のダイトウメジロを調べてきました。そして今では対象は日本全国のメジロに。「もしヨーロッパにメジロが分布していたら、シジュウカラと並んでモデル生物になっただろう」という橘川次郎先生の言葉を胸に、この可憐な鳥を追いかけたいと思います。



国際行動生態学会議が行われたスウェーデンの噴水横で。

お知らせ

中国語文献翻訳版電子データで提供

～偉大なる福井和二さん～

高木憲太郎・植田睦之

先日、バードリサーチのホームページをリニューアルした時に、自動翻訳機能を搭載させました。最近の自動翻訳の技術はすごいですね。英語以外の記事でも、けっこう読めてしまいます。ところがこれが論文となると、極端に読めない…。種名を動詞に間違えたり、とんちんかんな翻訳に笑ってしまうこともあります。そこへいくと、人間は偉大です。人間が翻訳したものは、ちゃんと読めます。チェスも将棋も、コンピュータに負けてほしくないですね。そんなわけで、ぼくの身近にいる偉大な方、福井和二さんに翻訳していただいた中国語文献のご紹介です。



写真. 翻訳中の福井和二さん.

福井さんは、80年以上？鳥を見続けてきた大大先輩で

す。見るだけではなく、捕まえたり、食べたり、付き合い方も多彩です。子供の頃は満州に住んでおられたため、中国語がばりばり読めてしまう福井さんは、ライフワークとして鳥類に関する中国語論文を翻訳してこられました。福井さんがこれまでに翻訳した文献は173本にのびます。なかなか手に入らない中国の鳥の生態についての論文、しかもそれを日本語で読めるというのは、貴重なことだと思います。

これまでご希望の方には福井さんから直接紙媒体の原稿を送っていただいていたのですが、この度ほぼすべての原稿をスキャンして電子化いたしました！パチパチパチ♪これからはバードリサーチのホームページからダウンロードすることができます。原文をご覧になりたい方はバードリサーチまでメールでお問い合わせください。日本に生息する鳥の中国での生息状況を調べるのにも重宝しますし、日本では繁殖していない鳥の生態の話は興味深いです。引用文献として活用したり、読み物として楽しんだり。ぜひご利用ください。

中国語文献の問い合わせ先:

br@bird-research.jp

日本語翻訳原稿はこちらからダウンロードしてください。

http://www.bird-research.jp/1_shiryu/china2.html

図書紹介

カラスのひみつ 生態と行動のふしぎをさぐろう

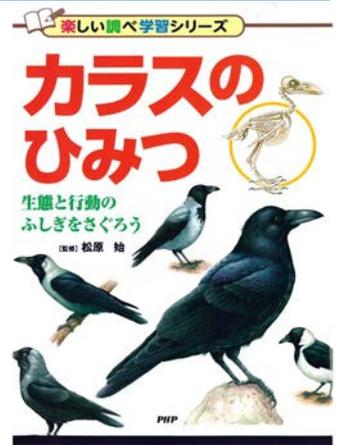
松原始 監修/PHP研究所 定価 3,000円(税別)

今回ご紹介するのは、「楽しい調べ学習シリーズ」という子供向け学習本のひとつ、「カラスのひみつ」という本です。監修は「カラスの教科書」の著者の松原始さんですが、本書を執筆しているのは鳥の研究者ではないようで、第三者からの広い視点でカラスの生態や行動、形態、そして人間との共存について、バランスよくまとめられています。カラスの学習能力や、樹林が切り開かれた波照間島のオサハシトガラスの形態の進化など、最新の研究成果も密かに盛り込まれています。バードリサーチも情報提供しており、カラスの移動について解説した節の中で、以前みなさんにご協力いただいたミヤマガラスの分布拡大についての調査結果が取り上げられています。

一つ一つの内容が、200～300字程度の短い文章で書かれているのでとても読みやすく、かつその中で重要なポイントを押さえながら偏った考えに捉われないように配慮され

た書きぶりはプロの技ですね。富士鷹なすびさんの愛嬌たっぷりのイラストをふんだんに使って解説されているので、小さな子供にも絵本として読ませられるかもしれません。嫌われることの多いカラスのイメージも変わるかも？お子さんのいらっしゃる方はもちろん、総合的な学習の時間に子供たちに鳥の話をする機会がある方などにはおすすめの1冊です。

【高木憲太郎】



バードリサーチニュース 2014年5月号 Vol.11 No.5

2014年5月30日発行

発行元: 特定非営利活動法人 バードリサーチ
〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9
TEL & FAX 042-401-8661
E-mail: br@bird-research.jp URL: <http://www.bird-research.jp>

発行者: 植田睦之 編集者: 青山夕貴子・高木憲太郎

表紙の写真: イカルチドリ